

平成24年度 香川大学大学院修了式 学長告辞

本日、香川大学から学位を授与された303名の皆さん、誠におめでとうございます。

この日を迎えるまでの間、皆さんは、指導教員のもと、日々厳しい研鑽を続けてこられたと思います。時には、くじけそうになったこともあったでしょうが、それらを乗り越え、それぞれの専門分野において自立して研究をすることができる確かな力を得、それが学位授与という形で実を結んだことは、皆さん自身だけでなく、これまで皆さんを支えてくれたご家族や、また我々にとっても大きな喜びでもあります。

さて、現代は、情報化社会であり、インターネットによって様々な情報が行き来しています。その中には、首をかしげたくなるようなものもあります。二年前の福島原発事故の際には、いわゆる風評被害によって、多くの人々が戸惑い、混乱しました。一部の知識人と言われるような人も、浅い知識や思考によって、その影響力の大きさを知らず、情報を流し続けていました。

このように研究者の影響力は大きいということを肝に銘じて頂きたいと思います。自らが、研究者として社会に向かって発信する場合には、確かなエビデンスに基づき、科学的な分析を踏まえ、その限界を認識しつつ、責任を持って発信して欲しいものです。

これからも自分の専門分野を極めるための努力を継続して欲しいのですが、一方で、人間的な大きさを身につけることも極めて重要です。それは、今までの殻に閉じこもることなく、様々な立場の人たちとの交流によって培われると思っています。例えば、世代の違う人、違った業界の人、外国の人などとの交流が考えられますが、それ以外にも読書や芸術によって、時代や国を越えて様々な思想や感性に触れることも必要です。

私も長い間、教育、研究、医療に携わってきましたが、その間、厳しい医療現場での体験、アメリカでの異文化体験、よき先輩や同僚との出会いなど、多くのことが今の私を育ててくれました。

人はとかく、独りよがりになりがちなのですが、多くの人たちと交流することによって、さらには一緒に仕事をすることによって、新たなアイデアを思いついたり、一人ではできないことが成し遂げられたり、とダイナミックな人生を送ることができると思います。

さらに、香川大学という地方で学んだことや生活したことを、強みとし、心から誇りに思っていて欲しいのです。どちらかという大都市志向の風潮があるなかで、地方で研究してきたことは、個性豊かな歴史と風土の中で生活をしてきたということであり、それは今後の研究生活やビジネスなどにおいて、人間的な味わいや説得力のあるものの考え方、そして個性豊かな仕事力として表れてきます。

香川大学において学位を授与された皆さんが、大きな自信と希望を持って、さらに前進することを期待し、私からのお祝いの言葉といたします。

平成25年3月24日

香川大学長 長尾省吾